

## 令和 8 年度 穎明館 中学校 入学式 式辞

今年も、今日という日を待ちかねたかのように穎明館の桜の花は咲き誇りました。このよき日、堀越学園本部から理事長の堀越由美子先生、副理事長の江上亀男先生、そして多数の保護者、ご家族のご臨席を賜り、令和 8 年度 穎明館 中学校 入学式を挙げる事ができます。私は本校校長の橋本好広です。よろしくお願い致します。

改めまして保護者の皆様、お子様のご入学、心よりお慶び、お祝い申し上げます。これから中学高校の 6 年間、穎明館教育への変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ただいま入学を許可しました 188 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、皆さんは喜びと期待、緊張と不安をもって、この場にいることと思います。皆さんは精一杯の努力と周囲の方々の支えもあって、中学入試を突破し、晴れて本校の生徒となりました。穎明館全体で歓迎いたします。まずはご家族をはじめ、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、新入生の皆さん、今年、2026 年は穎明館創立 41 周年を迎えます。約 40 年の間、建学の精神に基づく教育活動をしっかり行ってきました。建学の精神とは、学校を創立した先生が、どういう気持ちで学校を創ったかというその思い、教育に対する考え方です。穎明館の建学の精神は「新しい時代のリーダーを育てる」、すなわちグローバルな視野を持って時代や社会に尽くす人、貢献する人を育てるというものです。

また、穎明館の創立者は、堀越克明先生です。1919 年に東京に生まれ、東京大学を卒業した後、2011 年にお亡くなりになるまで、教育の世界で大きな貢献をされてきました。例えば 1978 年から 26 年間、日本私立中学高等学校連合会理事長、及び会長を務められた、いわば日本の教育界、私学界のリーダーです。

創立者堀越克明先生が示した穎明館教育の考え方は、『穎才新誌』、モデルにしたイートン校、EMK、校訓、モットーなど多くあります。新入生の皆さんには、キャリア教育という授業で、穎明館や創立者について学ぶ機会があります。

皆さん一人ひとり穎明館で学ぶ意味を考え、しっかりと勉強していきましょう。

今日はまず、穎明館の校歌についての話をします。校歌には建学の精神が凝縮されています。穎明館の校歌の作詞は創立者堀越克明先生、作曲は日本、昭和の時代を代表する音楽家の藤山一郎先生です。藤山一郎先生は、名曲「青い山脈」の作曲や、NHK 紅白歌合戦で指揮をしたことでも有名です。堀越克明先生は藤山一郎先生に、「アップテンポにしたら応援歌になるようにも作曲してほしい」とお願いしたそうです。藤山一郎先生は創立者の熱い思いを受けとめて、校舎ができる前のこの館ヶ丘の地に何度も足を運ばれて作曲されたそうです。穎明館の校歌は、「ともに学ぼう、高め合おう」という気持ちを力強く後押ししてくれます。皆さんに味わってほしい、かみしめてほしい歌詞は多くありますが、1番、2番ともに「穎明館こそわが誇り」で締めくくられていることに注意してください。「穎明館こそわが誇り」——この歌詞には勉強に、学校行事に、クラブ活動に全力で取り組む中で、学校に、穎明館に誇りをもってほしい。そして卒業してからも母校に誇りを持ち続けてほしい。そのような願いが込められています。新入生の皆さん、校歌は入学式の今日までに覚えてくることが宿題でしたが、覚えましたが。後ほど皆でしっかりと歌いましょう。

ところで、新入生の皆さんは読書をしますか。読書を通じて知識を増やしたり、考え方を深めたりすることができます。これからの中学高校生活で、大いに本を読んでください。今日は私から皆さんに、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』の一節を贈りたいと思います。宮沢賢治を皆さんは小学校の時に読みましたか。私は自分が小学生の時に読んで以来、時々本棚から取り出しては、ジョバンニとカムパネルラを乗せた幻の列車で、一緒に魂の旅がしたくなります。

「けれどもほんとうのさいわいはいったい何だろう。」ジョバンニがいました。

「僕わからない。」カムパネルラがぼんやりしていました。

「僕たちしっかりやろうねえ。」ジョバンニが胸いっぱい新しい力が湧くようにふうと息をしながらいました。

「あ、あすこ石炭袋だよ。そらの孔だよ。」カムパネルラが少しそっちを避ける

ようにしながら天の川のひととこを指さしました。ジョバンニはそっちを見て  
まるでぎくっとしてしまいました。天の川の一とこに大きなまっくらな孔がど  
おんとあいているのです。その底がどれほど深いかその奥に何があるかいくら  
眼をこすってのぞいてもなんにも見えずただ眼がしんしんと痛むのでした。ジ  
ョバンニがいました。

「僕、もうあんな大きな暗の中だってこわくない。きっとみんなのほんとうのさ  
いわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行こう。」

新入生の皆さん、「ほんとうのさいわい」、「ほんとうの幸せ」ってなんでしょ  
うか。人はそれを見つけるため、つかむために、学び続けるのかな、と思います。  
大人の願いはただ一つ、子どもたちに幸せになってほしいということです。宮沢  
賢治には「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言  
葉があります。『銀河鉄道の夜』を読むと、私は、世界が平和になって世の中の  
人皆それぞれに、誰のものでもない自分の幸せを自らつかみ取ってほしい、とい  
う気持ちで一杯になります。

新入生の皆さん、これからの中学高校の6年間、「ほんとうのさいわい」、「ほ  
んとうの幸せ」を探す旅と一緒に出かけましょう。まずは自分の内側から湧き上  
がってくるワクワクを大事にすることです。自分から進んで本を読み、学んでい  
きましょう。それが皆さんの一度きりの人生を幸せに、豊かなものにしていくこ  
とにつながっていくのです。

今日は入学式にあたり、「穎明館の建学の精神と校歌について」と、「ほんとう  
のさいわい、幸せと学び、読書について」お話しました。式辞を受けとめて、  
188名の皆さんが自ら進んで学び、読書し、誇りある穎明館での学校生活を送る  
ことを、大いに期待しています。

そして改めて今日のよき日の出会いに感謝し、喜びあいたいと思います。

穎明館 45 期生の皆さん、入学おめでとう。

以上、令和 8 年度穎明館中学校入学式式辞といたします。